

俳句の部

第二十五回 城崎短歌コンクール
第二十一回 城崎俳句コンクール

なかにしけんじ
選者プロフィール 中西健治 先生



1948年、兵庫県生まれ。
元立命館大学文学部教授。平安朝文学専攻。文学博士。「ポトナム」代表。現代歌人協会会員。「京都短歌」朝日新聞 選者。著書に『浜松中納言物語の研究』（大学堂書店）、『弄璞集本文と索引』（和泉書院）、『枕冊子全注釈五』（角川書店）、『平安末期物語攷』（勉誠社）、『雅文遠望』（龜鳴屋）、『源氏物語忍草の研究』（和泉書院）、『源氏物語のなごり』（新典社）、歌集に『茶屋峠』（ポトナム社）など多数。

選者講評

コロナ禍という長く暗いトンネルに世の中全体が縦横に支配されていた期間、人々の感性も委縮するかのよう
思われました。城崎の街もその煽りを食うことになり、陰鬱な空気に覆われていたかのようでしたが、コロナ禍を
乗り越えた今、ようやく元の活気を取り戻したばかりか、以前にもまして気力が増してきているように思えます。
今般、募りに応じて短歌、俳句をお寄せ下さった皆様の作品からも、我が街、城崎への深い親しみが読み取れ、愉
快な時間を過ごせたことでした。城崎短歌コンクールは今年で二十五回目、俳句は二十一回目を迎えることができ、
いよいよ充実してきました。このような素晴らしい企画を継続してこられた城崎観光協会の皆様に敬意を表したい
と思います。この冊子を手に入れた方、城崎温泉に足を運ばれた方。ちよつと立ち止まって一首、一句をひねって
みませんか。お待ちしております。

最優秀賞

春うららみやげは宿の土地訛り

埼玉県飯能市 請 関 邦 俊

冬が去り、人は旅に出る。旅情にひたり気持ちを解放させる。風景も人との交流もいよいよ旅情をそそる。いつまでも心に残る土の香りの残る言葉は心の奥底に届き旅情をいや増してくれる。旅の実感を掻き立てられるものだ。「春うらら」に心のたおやかな揺らぎがあり、そこに言葉がかぶさってくる。旅の真価は土地の言葉を得ることだ。

優秀賞

大^か谿^わ川ぞいの草木も蕊^{しべ}も春の風

東京都足立区 佐藤 春夫

町のなかを流れる大谿川。その川岸を春風に吹かれながら歩く。長い冬を堪えて春の光に顔をだした草木の芽、花の蕊は時節を謳歌しているかのようで、生命の輝きを満身に浴びているかのようだ。そして何よりも旅人の自身もそうだ。「草木も蕊も」の他にもろもろのものをも含んでいることを思わせ、いのちあることの感動を揺り返し呼びかけているようだ。

夕月や湯の香まとうて柳河岸

兵庫県豊岡市 藤田幸美

「湯の香」を「まとう」とは今しがた湯から出たばかりで、心身ともに満足感に浸っていたことを示しているようか。柳ゆらめく河岸の上に夕月があり、それに湯の香が加わる。あたかも一幅の美しい絵画の世界が広がっているようだ。「まとうて」というやわらかな響きに時間の流れを引っ張るストーリーを思ってみたい気分だ。

洞窟に湯の湧きたつや朧の灯

兵庫県高砂市 富田卓

洞窟の奥の方に目を凝らしているとどうやら湯が湧き出しているらしい。周囲の神秘的な光景に触れ、心身が引き締まる。大自然の密かな営みに感動すると共に、その先にある人工の灯りに心が癒された。温泉の湯けむりの向こうに見える灯りを句末に据えた安定感のある詠み方。それも「朧の」という輪郭の明瞭でないところに焦点を当てている。

母に似た人の手を取る太鼓橋

兵庫県川西市 木内 美由紀

城崎の大谿川に掛かる太鼓橋はいかにも風情がある。少しの段差でも老人にとって
は難儀なものだが、渡りかねている老人を見かねた作者が手を差し伸べ扶けている。
作者は相手を自分の母親に見立てて、否、母親に似ていたことで、こみ上げるもの
があつたに違いない。手のぬくもりは心の灯であつただろう。

屠蘇とその香が湯殿にこもる初湯かな

兵庫県豊岡市 谷口 俊一

元旦、一年の邪気を払うという屠蘇酒を飲み祝った後に湯に浸った人がいたのであ
ろう。その屠蘇酒の香りがそこかしこの湯殿に漂い、いかにも正月らしい気配に満
ちている。おそらくは何人かの先客もおめでたい気分であつたりと湯につかつたこ
とであろう。さあ、今年も頑張るぞ！

入 選

他国語も増えて城崎秋日和

兵庫県神戸市 春名 祐富子

湯上がりの項うなじくすぐる春の風

大阪府枚方市 高木 美智子

湯巡りに母の歩幅で春の道

兵庫県豊岡市 安田 尤之

湯あがりに顔を赤らめ横歩き

大阪府吹田市 長束 勉

湯上がりのほてりしずめし柳かな

愛知県豊田市 水鳥 和香

こうのとり春の幸せ子宝を

愛知県豊田市

水鳥 将希

天高く御祝儀相場海の幸

兵庫県豊岡市

森田 洋

語らえば父子と為るなり洞窟湯

大阪府大阪市

神足 颯人

松の芯^{もた}凭れいるなり蟹の墓

兵庫県神戸市

久保 隆子

初春の湯船に総身癒やさるる

大阪府枚方市

高木 司郎

雪に立ち白の輝きコウノトリ

京都府京田辺市

甲斐 俊作

灯しても消しても雪の城崎の湯

群馬県高崎市

遠藤 幸子

風花や旅の城崎野天風呂

東京都江戸川区

羽住 博之

冬の朝湯気の向こうにマンダラ図

愛知県稲沢市

安藤 政晴

腰曲がり見上げる空に糸柳

京都府南丹市

山崎 マキ子

湯の町や吹雪いてもなお情緒あり

京都府南丹市

川上 容子

道祖神の膝元に座す椿かな

京都府京都市

三原 寿典

夏空に湯の気まとうかコウノトリ

島根県安来市

飯塚 大樹

旅なれや浜茹で蟹をもてなさる

兵庫県加古川市

小谷 さよ子

初湯めぐり杖は母への感謝状

兵庫県尼崎市

荒川 としみ

城崎^きの^の文芸館^{ぶん}に忍び込んだる秋の蝶

兵庫県朝来市

高橋 久美枝

今日の月いざなふ外湯巡りかな

大阪府寝屋川市

山下 栄

まんだらの湯の香なつかし^{うら}孟蘭盆会^{ぼんえ}

山梨県甲府市

佐野 一彦

桜散り拍子揃わぬ下駄の音

大阪府箕面市

野崎文宏

城崎の雨音しずか薬師堂

京都府京都市

岸本忠明

城崎の露天で溶ける冬の月

大阪府大阪市

丸山瑞帆

湯の街で遊ぶ誰もがあの頃のまま

石川県金沢市

鴨志田紘哉

秋霖しゅうりんの城崎「みんなの傘」の群れ

大阪府交野市

福居祐人

花は葉に宿の下駄ゆく湯巡りよ

兵庫県丹波篠山市

植坂和子

春の湯やえいじ嬰兒誰かれ手を伸べて

大阪府羽曳野市

赤澤 皆

浴衣着て長靴を履く雨女

和歌山県和歌山市

大畑 葉月

マニキュアに一寸おしやれな蔓細工

大阪府羽曳野市

新居 とも

万人の心安らぐ湯の香かな

奈良県生駒市

川村 陽司

カランコロン二人で奏でる青春歌

京都府八幡市

松本 晏奈

初秋の柳湯の梁みあげたる

群馬県吾妻郡

武井 禎子

城崎の地を踏むたびに皆笑顔

兵庫県芦屋市

坂井弘和

平日のつかれをいやす七つの湯

兵庫県芦屋市

坂井大和

にぎやかや柳の端に下駄響き

兵庫県神戸市

赤塚啓紀

夏柳湯上がりの夜道つないでいく

兵庫県神戸市

瀧川菜月

滑翔の空一文字コウノトリ

千葉県船橋市

亀ヶ谷敦子

霜月の静寂鎧の改札所

兵庫県尼崎市

大沼遊山

夏休みいろはにほへとめぐるお湯

東京都渋谷区 茂田悠日

梅一輪涼風かおる鴻の湯か

大阪府大阪市 木下ゆかり

夏の朝熱すぎる湯で目が覚める

兵庫県尼崎市 鹿野聖世那

城崎に笑顔はこびしコウノトリ

岐阜県海津市 伊藤好香

ゆめぐりに花咲きめぐりみな仲間

東京都渋谷区 茂田博

友達と外湯をめぐり夢語る

大阪府堺市 都木葉

出石城麦わら帽子衝動買い

兵庫県三田市

田口創一郎

夏の朝挨拶かわすここのとり

奈良県奈良市

町田真弓

梅雨晴れの湯めぐり楽し姉妹旅

大阪府四条畷市

今井優子

城崎の湯けむりのぼる睦月はれ

和歌山県和歌山市

左巴誠人

足早に七湯巡りて汗拭う

大阪府大阪市

浜野あかね

初桜舞台の子猿軽く跳ぶ

東京都中央区

佐渡静香

蟬の森断ち玄武洞躍動す

大阪府門真市

川澄紘嵩

薄明り水面に揺れる柳かな

香川県高松市

津留大輝

コロナ明け湯音も弾む松ノ内

兵庫県三田市

石田力

春シヨールかごに立ち漕ぎの玄武洞

京都市左京区

新治柚季

玄さんと頭ぶつけあい勝つ自信

京都府城陽市

中嶋万日瑠

湯けむりと朝日照りつける初紅葉

愛知県名古屋市

三輪つかさ

うなじの香涼風吹き抜け夏茜ひくく

大阪府大阪市

村上哲也

老若の外湯めぐりや山笑ふ

奈良県生駒郡

堀江恵美子

蟹喰らい静寂支配同窓会

兵庫県丹波市

赤尾知子

桜散り浴衣姿に目移りす

京都府木津川市

栗本将吾

城崎の町を往き交う下駄の音

京都府八幡市

藤原潤一

柳ゆれ下駄の音ひびく城崎や

京都府京田辺市

藪本ゆかり

夕暮れに夫婦手つなぎ柳道

京都府宇治市

木戸国広

湯上がりを花火の音に急かされて

兵庫県姫路市

廣田早苗

露天風呂梅の実ひとつ語り出す

兵庫県豊岡市

川原美世子

下駄の音湯治間近のはずむ声

大阪府豊中市

北山嗣人

城崎の大名気分で湯をめぐる

大阪府高槻市

奥村桂子

春雨や湯巡り傘に花一輪

兵庫県豊岡市

四角澄朗

湯巡りに袖すれ合うや春の風

滋賀県大津市

横川和弘

果てまでも真青の水面春の海

大阪府茨木市

久保由美子

想い馳せ鳥のさえずり鴻の湯に

奈良県生駒市

中西浩

いそいそと湯桶まわって冬但馬

兵庫県西宮市

上木京子

円山の朝ぎり恋し幼き日

滋賀県大津市

高木貞子

城崎やかニもお風呂もとろけてる

大阪府大阪市

近藤めぐみ

失敗も寒波にのって飛んでいく

滋賀県守山市

北脇里紗

見た景色文豪たちのふるさとだ

兵庫県明石市

藤井みらの

湯上がりの休憩室に西陽差す

大阪府大阪市

高畠空

まんだらの熱き湯に唸る如月や

滋賀県草津市

鼎智仁

海際の夜を彷徨う蛍鳥賊

兵庫県明石市

小田虎賢

冷えているからだ露天の湯に沈め

兵庫県明石市

小田和子

来た来れた脳裏の柳川面かな

京都府京都市

松田茂樹

松葉蟹但馬の夜を駆け抜ける

岐阜県岐阜市

田中恭司

オンセンジャー合わせる子らの声高し

三重県名張市

高西宏

宿の傘借りて外湯へ春時雨

兵庫県神戸市

岸下庄二

花吹雪文士の筆を進めけり

奈良県奈良市

堀ノ内和夫

満月に志士蘇る辰鼓楼

京都府福知山市

山口秀樹

風花に「ようきんさった」と耳が溶け

大阪府吹田市 市場 さと枝

星月夜外湯めぐりの下駄の音

兵庫県姫路市 南 雅美

花冷を纏ひ露天の湯にざぶり

兵庫県明石市 小田 慶喜

世も人も大谿川に流れ着く

香川県高松市 堀川 瑛成

そと内に秘めた湯けむり晴れたれば

茨城県ひたちなか市 岡崎 由依

第二十五回城崎短歌コンクール
第二十一回城崎俳句コンクール

城崎百のうた

二〇二四年六月九日発行

編集 中西 健治（元立命館大学文学部教授）
発行 城崎温泉観光協会

〒六六九一六一〇一 兵庫県豊岡市城崎町湯島七八

TEL 〇七九六一三二一三六六三

FAX 〇七九六一三二一三〇〇五

E-mail info@kinosaki-spa.gr.jp

URL <https://www.kinosaki-spa.gr.jp/>

